

# ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎ 364-8442

## 謹賀新年

大代地区コミュニティ

推進協議会 会長 跡辺 三夫

新年おめでとうございます。今年度の抱負として取り越し苦勞を止めて元気良く上を向いて歩きたいと思っております。

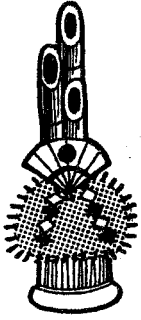
朝門の前に立って通学の子供達を見ていると、黄色いランドセルを背負った一年生が二、三人、連れだって大声で話し合いながらせつせつと歩いていきます。何のくつたくもなく、さあ勉強してくるぞ。友達と遊んでくるぞと。これらを見ているとこちらも大きく背伸びをしたくなります。

いろいろ苦勞をしている為政者の方々どうぞ取り越し苦勞の必要のない楽しい、明るい今年をつくって下さい。それを期待して私共庶民は今日も元気良く出発したいと思います。思っております。

今年度の大代地区民皆々様の、隆々躍進をお祈り致します。

本年もどうぞよろしく

お願い申し上げます。  
コミュニティ推進協議会役員一同



ご祝儀 お見舞いは

三千元を限度にし

お返し物はしないようにお互い気を配りましょう

## 謹賀新年

大代区長会

会長 福田 幸治

新年明けましておめでとうござい  
ます。

皆様にはご家族お揃いで良い新年を迎えられました事心よりお慶び申し上げます。

本年も良い年でありませう心からお祈り申し上げます。

平成十五年 元旦

## 現代のバベルの塔

多賀城東小学校

教頭 伊藤 公一

古代バビロニアのニムロド王はこの世の全ての物を手に入れた。自分の力を神のいる天にまでとどかせようと、巨大な塔(ジグラット)を建設した。しかし、神はおごりたかぶった人間のさうまんさをとがめ、これを打ち壊してしまった。これが、「聖書に登場するバベルの塔」の伝説である。

現代の家庭も、何かこの「バベルの塔」に似ていないだろうか。高い服、高いバックや宝石を身につけ、新車やクルーザーを乗り回し、大きな新築の家に住み、別荘も持っていたい。

そんな「もの」への執着。この世の物は全て手に入れようとしている。

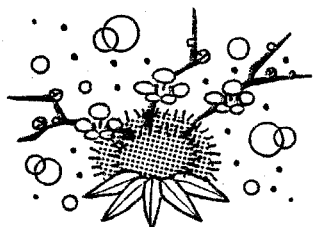
ニムロド王とそっくりである。果たして、このような家庭の子育ては「幸せ」に進んでいるのだろうか？

仕事忙しいので夕食をつくる時間がなくて、デバ地下で買った惣菜での夕食。日曜日は、一週間の疲れが出て、ランチのシリアル。夕食は、これから始まる一週間を前に疲れるのがいやなのでコンビニで買った弁当？さて、もしもこんな家庭のサイクルで子育てをしたら「親の愛情」はいつたいてどこで育むのでしょうか。もしこんなことを繰り返していたら、子供達は、親の愛情を「お金」で計るようになります。

例えば、まだ使える消しゴムがあるのに「消しゴム欲しいから買って」とか。五本も六本もサインペンがあるのに「サインペンの色が薄くなったので買って」とか。そして要求物もだんだんと高額になります。親は、普段忙しくしていてもなにもしてやれないでいる負い目から不憫に思い、要求される物全てを買い与えていく。しかし、最後は親の能力では買えない高額の物を要求されるそこで初めて「ダメ」という親の返答。子供の方は親の愛情はこれまでもと思い「キレル」。ここからは、お決まりの「家庭内暴力」とか悪仲間との「不良行為」へまっしぐらです。

私はこんなTVコマーシャルが好きです。「物より思い出」こどもにいっぱい愛情を注がなければならぬ時期は小学校の時。決してお金や物で愛情は買えません。子供の将来を暗くしているのは、お金と物と下品なTV番組。与えているのは全て親。制限してあげ

られるのも全て親です。あなたはどうするの？親を選んで子育てをしますか？バベルの塔は必ず崩壊します。必ず：



## 今年の計画

大代地区子ども会育成会

連合会 会長 星 篤

新年明けましておめでとうござい  
ます。今年も大代地区子ども会育成連  
合会の活動にご支援をお願い致します。

昨年の夏のキャンプには、七十名を超  
える子ども達が参加しました。各地区  
ごとにテントを用意するなど、参加し  
やすい体制づくりを行ってききました。

その甲斐があつてか、毎年に参加者  
が増えております。今年も更に指導者  
の人数を増やし内容を充実させたいと考  
えております。また、十月に予定して  
おりますスポーツ大会には、参加者全  
員と一緒に競技できる種目を増やした  
いと考えております。その他に、今年  
は新たに九月頃に子ども達のお祭りを  
計画しております。

生き生きと活動する子ども達の姿は  
とても良いものです。今年もその姿を  
追い求め、活動していきたいと考えて  
おります。

# お正月に思う事

大代南 星 繁子

早く来い来いお正月！と声を張り上げ歌った昔が懐かしい、でも今は違う人間七十を過ぎると、あつちが痛いこつちが痛い毎日ハラハラドキドキキ年なんて重ねたくないと思うがこれは自然の摂理で致し方ない事、それなら頑張って素敵に生きようと思う。私には幸い応援歌を送ってくれた父がいた。毎年お正月になると父は「一年の計は元且にあり一日の計は朝にあり」元日に良い過ごし方をすると一年中良い事があるという事である。

「笑う門には福来たる」「泣き面には蜂がさす」悲しい事、嫌な事と泣いてばかりいるとそこに又嫌な事が重なって来る悪循環である。「人を恨まば穴二つ」あまりいい音ではないが口惜しいと人を恨んでばかりいると自分もそんな人間になってしまうという事である。私のこれまでの人生を支えてくれた父母に感謝しそして子供達にも伝えていきたいと思えます。

# ベリアの回想

(鎮魂の旅)

大代南 後藤 清一

行く年二〇〇二年を顧みてどうであったか、只平々凡々と過ぎた感じ、今年こそ少しはましな健康で穏やかな年でありますように。

次のスケジュールがあるのでと急がされ後髪を引かれる思いで、発掘現場の後にしたのでした。気になる天候もあるの気の滅入る雨音もハタと止み全く不思議に思えるくらいだ。彼等の霊が私達の安全を願うての気遣いか？

沢水の音に耳を傾けながら雑木林を潜り、昼尚暗い鬱蒼とした白樺の腐葉土を踏み登ること三十分、山頂を背にして一本の太木が悠然と茂り早くもその梢から漏れる陽が気味悪いほど静かである。此処は収骨した遺骨を火葬にする処だそうです。地面に厚い鉄板が敷かれその上に薪を組み、遺骨を重ね、火を入れるのであろう。見守る肉親もなく只淡々と処理されるであろうに、いろんな想いになんとも悔しい、悲しいどうか丁寧な扱いで速やかに帰してと深く念じバスに戻ったのでした。

右手を道路と併行して走るウルガル線その中間に位置するテイルマは、この線路の要衝な駅である。その鉄道も駅も我々日本人捕虜が建設したものだ。バム鉄道と言う第二のシベリア鉄道もすべて日本人が零下四十度の酷寒の中で生死をかけて敷いたものだ。この鉄道建設では枕木一本に人柱一本が立つたと言われた程に犠牲者が多かったのです。私もその体験者の一人として身につまされる思いです。バスは二十分程で今日の宿幼稚園舎に着く。空は美しく晴れ大地の夕焼けは何時見ても神秘的だ、真つ赤なでかい太陽もやがて

遠い山並みの裾に沈むのだろう。我々抑留者も平均年齢八十才になります。高齢に付きまとう痛みはどうする事も出来ず悲哀を感じます。だが永遠に祖国の土を踏めず俺の青春はシベリアで終わったと今なお暗い冷たい土の中にいる同胞の声に耳を傾け元氣なうちに再度の訪問をしたいのだが、悲願の発掘収骨の場に出会えたのは実に幸運でした。ほんの一握りのパンで生かされ、水もなく勿論休憩もなく一体私達は何を貰ったのだ、私もそんなシベリアで亡き友と同じ空気を吸っていたのだ。

次回に

# 大人たちのための童心物語

## 月夜のメルヘン 11

大代西 若生 一徳

「指きりげんまんよ。約束を破ったらどうなるか言っておきます。そのときは、私の方が先に立って、お母さんを連れて家を出て行きますから！」

「おお、怖。お母さんよりずっと怖いなア。約束は断じて破らないから、家庭の幸福が一番。めぐみの手、あんなに熱っぽかったのに、すっきりしている。冷たいぐらいだ。安心した」

「お父さん、私の病氣、突然すっかり良くなったの。なぜなのかそのわけはお母さんが帰ってきてから教えます」  
「そう言えば、お母さんからもことづけが。お父さんだけでなく、めぐみにも手紙を出したそうだ。封を切らずにそのまま返してくれって」

「お母さんの言うとおりにしましょう。私しばらく病氣のふりをしよう」

「いけません。早く安心してもらわなくては。それからお母さんのおみやげ、つきたてのお餅だつて。めぐみにぜひご馳走したいと意氣こんでいたよ」

「あのね、私からもプレゼントがあるの。同じもの二つよ、とつてもすばらしいもの。お父さんとお母さんに」

「ほう、うれしいな、なんだろう」

めぐみはにっこりほほえんで、ネグリジェのポケットに手を入れました。  
「はいプレゼント」と言つて、父に差し出した手のひらには、貝のボタンが二つ仲良く並んでおりました。(終)

# 俳句

大代西 松浦 富男

整わぬ新居なれどもシクラメン  
野を駆ける光の乱舞雪迎え  
冬暖かくし遠き煙の真つ直ぐに

笠神地区 本郷 勝子

天空の炎となりて銀杏の木  
まゆみの実つけてぬくもる耳かざり  
どんぐりが箸置きとなりもてなさる

# 川柳

大代西 藤田 遊子

元且や我が家の観音初参り  
元且や知らぬ人から年賀状  
元且や姑不在で一番風呂